

令和 6 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立平岩小学校

学校長名 神重 修治

1 研究主題，研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的に学び合う社会科の授業づくり

～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

平成 29 年 7 月告示の小学校学習指導要領では、社会科の目標を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のように養う。」とし、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

また、令和 3 年中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、①個別最適な学び、②協働的な学びの実現が挙げられている。変化の激しい社会を生き抜くこれからの子どもたちには、広い視野に立ち国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが必要である。その基礎を養う小学校社会科においては、個別の事実等に関する知識のみならず、それらを使いこなしていく力を育成することや課題を追究したり、解決したりする学習を通して「社会的な見方・考え方」を成長させていくことを主眼に置いた社会科の充実が求められる。

本校では昨年度の研究主題を、「自分事として考える社会科の授業づくり ～意図的な学び合いを充実させる工夫を通して～」とし、社会科における教育研究を推進してきた。その成果と課題は次のとおりである。

【成果】

- ・取材等をして作成した児童の興味関心を引く資料を活用し、児童一人一人が自分の考えをしっかりとをもって学び合いを展開することで、児童は知識の質を高め、主体的に学習に取り組むことができた。
- ・授業の各場面において、指導者が問いを吟味し、ねらいを明確にした資料や教材を提示することにより、児童が主体的に考える授業を成立させることができた。
- ・「学び合い」の手立てとして資料の活用を工夫したり、「学び合い」を授業に取り入れたりしたことで、知識が高まったり自分の考えが深まったりしたことを実感できた児童が増えた。

【課題】

- ・「学び合い」に向かうまでに必要な知識をしっかりと獲得できておらず、本時の課題で自分の考えをもつことができていない児童もいる。
- ・本時で新たな資料等を用いて新しい情報を捉えさせていたため、資料の読み取りに時間がかかり、思考する時間が十分に確保されていないことが多かった。

- ・児童の思考を深める発問において、なぜ考えなければならないのか、また、何を考えさせるのか、明確な問いになっていない。
- ・「学び合い」が、グループ全体で考えを発表する場となっており、児童の意見を共有するだけの活動となってしまった。学び合いでの思考のさせ方も一辺倒となっており、多様性に欠けていた。

これらのことを踏まえ、児童がより主体的に学習に取り組み、社会的な見方・考え方を成長させ、公民的資質の基礎を育むために、今年度の研究主題を「主体的に学び合う社会科の授業づくり ～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～」とし、研究を推進することとした。本校がこれまで培ってきた社会科授業の工夫・改善を図り、更なる向上を目指すために、社会科の授業において「学び合い」の質を高めるための工夫を研究することにより、児童がより主体的に社会的事象と関わり、よりよい思考へと深め合いながら、社会科の本質へと迫っていく授業づくりができると考えている。また、社会科の本質へと迫っていくために必要な知識を、指導方法や教材等を柔軟に提供・設定し、個別で課題を追究していくことができるようにすることで、児童が様々な課題を主体的に考え、一人一人が達成感を味わいながら必要な知識を身に付けることができるように工夫していきたい。

（３）研究仮説

単元の中で、意図的に個別に課題を追究する時間と学び合いの時間を設定し、児童が主体的に考える授業を創り出せば、児童は社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる社会的な見方・考え方を獲得することができるであろう。

（４）研究内容

個別に課題を追究するための工夫【主体的】

- ・導入の工夫
- ・場の設定の工夫
- ・資料の工夫
- ・ICT の工夫
- ・個別の追究する内容の工夫

学び合いの質を高めるための工夫【協働的】

- ・身に付けさせたい知識に応じた質の高い問いの設定
 - ・身に付けさせたい知識に応じた資料の精選・活用方法の工夫
 - ・ねらいに沿った思考場面の設定
- 資料相互の関連、他者の考えとの比較、習得した知識の総合など

単元全体を通して、単元の目標を達成するための「学び合い」を単元計画に明確に位置付けるとともに、単元や本時における児童に身に付けさせたい知識を明確に設定する。また、低学年部（国語科）においても同様の工夫をしていく。

(5) 検証の方法及び指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
児童の学び合いの姿 個別の課題追究の手立て 学び合いの質を高めるための手立て	授業評価票	教師の肯定的評価	評価票 3 以上
児童の基礎学力の定着	単元末テスト	思考・判断・表現 知識・理解 を問う問題	正答率 80%以上の児童を学級の 8 割以上
単元で付けたい力の定着	児童のまとめや振り返りの内容	児童の記述	目指すまとめや振り返りができる児童 80%以上
児童の意識	児童アンケート	児童の肯定的評価	児童の肯定的評価 3 以上

2 検証計画

検証時期	検証内容	検証方法
6 月	児童の実態把握	児童アンケート
7 月～12 月	校内研究授業 単元終了後	研究協議・授業評価票・児童のまとめや振り返り 単元末テスト
12 月	児童の実態把握	児童アンケート
	研究のまとめ 成果と課題の分析	児童アンケート・単元テスト 授業評価票・児童のまとめや振り返り

3 校内研修計画

月	研修スタイル	主な研修内容	指導者
4 月	研究推進委員会	校内研修計画・研究主題について 昨年度の研究の振り返り	
5 月 6 月	全体研修（理論研修）	今年度の研究主題について 校内研修計画について 社会科（国語科）の授業づくりについて 個別最適な学びについて	研究主任 指導主事
7 月	全体研修 ブロック研修	研究授業内容決定、指導案について 各ブロックでの研修	研究主任 教務研修部
8 月	ブロック研修	指導案検討	教務研修部
9 月	全体研修・ブロック研修	6 年部研究授業 特別支援学級研究授業	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事
10 月	全体研修・ブロック研修	5 年部研究授業 特別支援学級研究授業	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事
11 月	全体研修・ブロック研修	2 年部研究授業 4 年部研究授業	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事

		研究紀要について	研究主任
12 月	全体研修・ブロック研修	1 年部研究授業 3 年部研究授業 研究紀要について	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事 研究主任
1 月	全体研修・ブロック研修	研究紀要見直し・まとめ	教務研修部
2 月	全体研修	県外出張・研修報告	教務研修部
3 月	全体研修	今年度の振り返りと来年度へ向けて	研究主任

4 研究公開の予定について

特になし